



使える「日本語力」をめざして

—「日本語でケアナビ」サイト制作から学んだこと—

関西国際センター 日本語教育専門員 上田和子・田中哲哉

国際交流基金関西国際センターでは、和英・英和辞書機能（約6,000語彙と約2,000の例文）を持つインターネット・サイト「日本語でケアナビ」（<http://nihongodecarenavi.jp/>）を制作し、2007年7月から一般公開しています。このサイトを開発していく中で、日本語のさまざまな特徴や表記についての課題を経験しました。この記事では、「日本語でケアナビ」開発の背景の概略と、それらの経験から日本語教育と関わりの深いものをいくつか紹介したいと思います。¹

1. 開発の経緯

(1) 背景と概略

2004年11月に日比首脳間において大筋合意された日本フィリピン経済連携協定に基づき、日本政府は、近い将来、病院や高齢者介護施設等で、看護師や介護のプロとして仕事をする外国人、特にフィリピンからの受け入れを許可するということを発表しました。現在、まだそれは実現していませんが、すでに日本に住んでいるフィリピンの方の中にも、介護の仕事に関心を持っている人がたくさんいます。さらに、フィリピン以外の海外でも、将来、日本で介護の仕事に就く目的で日本語学習を始める人がいるそうです。

このような動きを受けて、2005年4月から、国際交流基金関西国際センターで外国人の看護師や介護福祉士に対する日本語教育支援への取り組みが始まりました。そして、2006年3月には基本となるデータベースが、2007年3月にはインターネット・サイト「日本語でケアナビ」のデータが出来上がり、同年7月からそれを一般公開しています。

(2) 目的

外国人の看護師や介護福祉士に対する日本語教育が議論にあがったころ、「彼らは専門的な資格を持っている。だから、必要なのは日本語力だ」という声が聞こえてきました。では、その「日本語力」とは一体どのようなものなのでしょうか。まず頭に浮かんだのは、専門のことはを集めることでした。しかし、一口に看護・介護といっても、この二つの分野は専門的にかなり異なります。看護は医学の勉強が必要ですし、介護も体の動かし方など、独特の専門知識と技術が必要です。日本語教師に何がどの程度まで可能なのか、話し合いを重ねた結果、私たちは「日本で働いて生活するためにより基本的な日本語力の育成」を目指すことにしました。この目的は、次の3点にまとめられます。

- ① 患者や施設にいる人々とのコミュニケーションに必要な日本語
- ② 日本人スタッフと一緒に働く上で必要な日本語
- ③ 働く人が、個人として日本の生活に必要な日本語

2. 内容

1でまとめた「日本語力」に基づき、「おせわをする」「病院で働く」「職場のコミュニケーション」「気持ちを伝える」「日本でくらす」の五つの分類を日本語使用場面としました。



<http://nihongodecarenavi.jp/ja/index.html>

(1) 使用場面とことば

「おせわをする」：朝起きてから夜寝るまで、さらに寝ている間も含めた24時間のおせわのことば。「おふろにいれる」「車椅子」「リハビリ」「うつむけになる」など。
 「病院で働く」：病名、治療方法など、医療に関係のあることば。「問診」「消毒する」「応急処置」。また、「ずきずきする」「きりきりする」など「痛み」の表現も。
 「職場のコミュニケーション」：同僚や上司らとの間で必要な、打ち合わせや連絡などコミュニケーションのことば。「担当する」「シフトを組む」「引きつぎをする」など。仕事の時間以外の付き合いでは「歓迎会」「割り勘」などの社交のことばも。

「気持ちをつたえる」：状況を判断する場面で必要な、見たもの感じたことを表すことば。「調子がいい」「いらいらする」、「がくつとくる」、「やりがいがあがる」など。「日本でくらす」：日本社会の中のさまざまな場面で必要なことば。「外国人登録証」、「資格」などのほかに「給料」「近所づきあい」なども。

(2) 例文と表記の特色



http://nihongodecarenavi.jp/en/en_entry_1058.html

例文はできるだけ初級文型で作りましたが、一方で、自然な日本語になるように心がけました。この作業から、初級＝簡単、とは言えないことがわかってきました。初級の文型は単純ですが、いろいろな解釈ができるので、かえって難しいとも言えるのです。たとえば「ときどき運動しましょう」という文は、「いっしょに運動しよう」という「誘い」の意味ですが、医師や看護師が患者に話す場合は、「運動した方がいいですよ」という「促し」の意味になります。医者や看護師という役割・立場の人が、助言として話す場面だからです。つまり、いつ、どんな場面で、誰が誰に話しているかによって意味は違い、したがって、英訳も異なります。このような文脈を補助するために、「話者情報」を簡単なイラストで示すことにしました。

語彙や例文の表記は、漢字かな混じり文とともに、ひらがな文でも提供しています。しかし、長いひらがな文は読みにくく、また意味もわかりづらくなるので、画面では「ときどき うんどうしましょう」と、「分かち書き」で表記しています。

英語版（ローマ字版）も、語彙はローマ字の分かち書きです。ローマ字表記にはもう一つ「長音」の問題がありました。通常、ローマ字で長音をあらわすには母音の上に横線を引きますが、インターネット画面では、いわゆる「文字化け」を起こしてしまう可能性があります。そこで、長音は母音表記を二つ続けて表すことにしました。たとえば「うんどうする」は、「undoosu」、「コーヒー」は「koohee」となります。

3. データ検証での協力

英文データ作成では医療通訳翻訳者グループに、データ検証では医師、介護福祉士らに協力を得ました。フィリピン人日本語教師の方々からは、「あいさつなど日本語独特の言い回しについて、『文化的コメント』の解説が必要」など、具体的な提案をいただくことができました。もともといろいろな意味を含むことばを、一問一答式に訳すことに限界があるのですが、それを補うためには日本語教師の視点を加えることが重要です。それによって、より使いやすいサイト作りが可能になるだろうと思います。

4. 公開後の反響から

公開から約6ヶ月、その間、世界中からさまざまな反響が寄せられました。アクセス解析によると、現在、50を超える国や地域の人々が「日本語でケアナビ」を使用しており、アクセス数は30万件に上ります。これは開発スタッフの想像を超えた規模と範囲の手ごたえです。私たちはインターネットというメディアが、世界中の多くの人の生活に、日常的に入り込んでいることを改めて知りました。また、日本語学習に対して強い関心を持っている学習者が、世界各地に潜在的にいることも、直接感じ取ることができました。「日本語でケアナビ」について「使いやすい」、「親しみやすい」という好意的な声が聞こえてくる一方で、「音が聞きたい」や「ポルトガル語、中国語でも欲しい」という、熱心な要望も寄せられています。

開発プロジェクトを通じて、私たちが学んだことは教えられるべきではありません。特に、公開後の反響からは、初級、中級、上級へと進んでいく「タテ」方向だけではなく、初級の知識を活用して広げて行く、「ヨコ」方向にも学習に値する領域や方法があることを示唆されました。初級レベルの日本語力で専門分野や仕事での運用力を養成していくためには、さらに次の4点に関する調査研究が必要だと思えます。

- 1) 「いろいろな動作」など、日常生活での身近な表現の分析
- 2) 「～てもらおう」など、人間関係や配慮の表現の検討
- 3) 初級レベルの文法的知識による運用場面の開拓
- 4) ノンネイティブ日本語教師との連携

日本語を使って専門的な仕事をする人々に対し、どのような日本語学習の材料を、どのように提供するか、そのために世界中の日本語学習者や日本語教師と、どう協力していくべきかについて、今後も「日本語でケアナビ」とともに考えていきたいと思えます。

1 「日本語でケアナビ」開発の背景や過程については、「こちら『日本語でケアナビ』開発室」というブログで公開しています。
http://nihongodecarenavi.net/blog